

はじめに

多くの人命を奪った感染症が収束の兆しを見せるかと思えば、人間の尊厳や生命の尊さを蹂躪するような戦争がまだまだ続いています。「企業活動の前提は社会の平和」などという感覚は全くはかないものであることが明らかとなりました。戦後の東西冷戦についても、1989年の東西ベルリンの壁崩壊と1991年のソビエト連邦崩壊によって冷戦構造は解消し、「とうとう世界に平和が訪れた」などという思い（私自身が社会人4年目に実際に覚えた高揚感）は、30年後に幻想にすぎなかったことを思い知らされました。

こうした歴史上きわめてまれな不確実性に、現代の企業と社会は同時に複数直面しています。そこには今までとは異なる発想に基づく新たな枠組みが求められています。このような時代において、本年第12回年次大会は、「危機を乗り越えて：人・市場・社会をめぐる新たなパラダイムへ」を統一論題として開催されます。

本号には、これまでになく試みが施されました。今年からは、先回の大会要旨に加え、同一年の大会テーマに沿った招待論文を前面に出して掲載します。もともと学会誌の発行時期と年次大会は同期していたので、今年の大会テーマに深く関連する論文を掲載することにより、学会誌と年次大会がシンクロして相乗効果を発揮するように企図されました。

その意味において、今年の大会テーマである「危機を乗り越えて：人・市場・社会をめぐる新たなパラダイムへ」に即した招待論文を快くご寄稿いただいた、当学会創設者であり、前会長の谷本寛治早稲田大学教授には、その貢献に心より感謝する次第です。この論文は、まさに冒頭に述べた問題意識「企業と社会に求められる、今までとは異なる発想に基づく新たな枠組み」を示しています。

また、先回の第11回年次大会「デジタル・トランスフォーメーション（DX）による社会的価値の創出—持続可能性（SD）実現におけるデジタル技術の役割」の抄録も、大変読み応えのある内容です。慶應義塾大学医学部宮田裕章教授と富士通株式会社の福田譲氏による基調講演を始めとして、改めてデジタル技術が社会の深層に影響を与え、人間のWell-Beingのためにそれら技術を活用することがいかに大切であるかを思い起こさせてくれます。続く自由論題も、サプライチェーンにおけるクロスセクター協働、児童労働問題解決に向けたブロックチェーン技術の活用、インパクト投資における社会的投資ブローカーの役割など、現代の企業と社会に関わる問題に取り組んだ、まことに時機を得たテーマが展開されています。

現代における企業と社会に関わる重要な示唆を感じさせる研究成果をぜひご一読いただき、日々の思索や活動の糧としてお役立ていただきたいと存じます。

2023年7月

企業と社会フォーラム会長

慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授

岡田 正大